

平成27年度 事業計画書

平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

公益財団法人 理想教育財団

基本方針

文部科学省の小中学校学習指導要領では、児童・生徒の「生きる力」の育成、知識・技能の習得と、課題解決に必要な思考力・判断力・表現力等の育成、さらに道徳教育や体育などの充実による豊かな心や健やかな体の育成を基本方針としている。

理想教育財団は、学習指導要領に基づく「言語活動の充実」を目標に、国語を始め各教科での読解力を深め、言語能力を高める為、新聞教育を通じた表現力・コミュニケーション力の育成を支援する。

また、健全な学校経営・学級経営の実現を目的として、学校・教師と児童・生徒、家庭、及び地域社会とのコミュニケーションの有用性を研究し、それらの活動に対し積極的な支援を行うことを基本方針とする。

【A】調査・研究事業

A-1 学校情報伝達システムの調査・研究

1. 通信づくり講習会、新聞教育指導者講習会等、教師又は大学の教職課程の学生を対象とした講習会を開催する。
2. 教育委員会又は学校独自で取組む学級力向上プロジェクトの推進を支援する。

A-2 教師による自作教材の調査・研究

学習プリントをカラー化することによる教育効果や視覚的效果などについて調査・研究をする。

A-3 児童・生徒による創作表現活動の調査・研究

1. はがき新聞の教育効果に関する調査・研究

(1) コンパクトテキスト育成調査・研究

「はがき新聞」をコンパクトテキスト(短文章)と位置づけ、学習過程における「言語活動の充実」を視野に入れた、こどもたちの「考える力」「書く力」を高める具体的な方法として「はがき新聞づくり」を推奨し支援する。特に、主幹教科である国語科において、物語文の要約と読解や説明文を書く記述力を高める授業を支援する。

尚、研究協力校への教材助成は継続実施する。協力校での実践事例の一部は「季刊理想」にも掲載する。

また、「はがき新聞研究会」において、中学校を対象にはがき新聞づくりを利用した授業の実態を調査・研究する。

(2) はがき新聞の道徳科授業での調査・研究

道徳の教科化に向けて学級力向上プロジェクトとの連携を強化し、はがき新聞づくりの活用に関する調査・研究を推進する。

(3)平成 27 年度 理想教育財団「教育フォーラム」の開催

1. 第 3 回の開催

日時:平成 27 年 8 月 30 日(日)

会場:大阪梅田駅周辺を予定

対象:関西地区の教育関係者及び財団関係者 200 名

テーマ:「言語活動の充実」におけるはがき新聞の活用 ―はがき新聞の教育効果―

2. 第 4 回の開催

日時:平成 28 年 1 月 24 日(日)

対象:全国の教育関係者及び財団関係者 250 名

会場:東京銀座 時事通信ホール

テーマ:調整中

(案)1 「コンパクトテキスト育成調査研究」 ―中学校の調査研究―

2 「道徳教育と学級力向上」におけるはがき新聞の活用

2. 壁新聞づくりに関する調査・研究

個人新聞としての「はがき新聞づくり」と連携して、少人数単位で共同制作する「壁新聞づくり」を通して創造力・デザイン力と制作過程における協調性を育む授業を推奨する。

【B】情報提供事業

B-1 教育関連出版物の刊行

授業に役立つ「言葉の歳時記」(中渕正堯先生・兵庫教育大学名誉教授)を刊行する。

新「通信づくりハンドブック」(吉成勝好先生)を刊行する。

B-2 研究情報誌の発行

機関誌「季刊理想」の発行

「教育とコミュニケーションの研究情報誌」として発行し、小・中・高等学校、教育委員会など、教育関係者に配布する。

各教育委員会経由の定期配布等をすすめ発行部数の増加を図る。

B-3 ホームページの運用

財団事業の告知や活動報告、情報開示のほか、プリントコミュニケーション活動に役立つ情報の提供をさらに充実させる。

また、財団メールマガジンの発信準備にとりかかる。

【C】助成・顕彰事業

C-1 後援・支援の事業

1. 第 23 回「臨書と自由書作品展」の共催

児童の書を考える会主催の本作品展とコンクールは、書教育を通じ、心豊かな人間の育成を考えながら青少年の創造性を育み、書芸術の美意識の向上を図ることを目的として開催する。

2. 文化芸術教育の充実に関する事業への助成

各地の教育委員会が主催する、学校における文化芸術活動の発展・充実と、児童・生徒の健全な育成を目的とする事業を支援する。

3. その他、プリントコミュニケーション活動、コミュニケーション文化の発展に関わる事業に必要な応じ助成・支援する。

C-2 新聞教育の普及・振興

1. 第 65 回「全国小・中学校・PTA新聞コンクール」の後援

主催：毎日新聞社、全国新聞教育研究協議会 上位受賞校に対し、理想教育財団賞と副賞を提供する。

2. 第 58 回「全国新聞教育研究大会」京都大会の後援

3. 地域の新聞教育に対する支援

・第 42 回「東京都小・中学校・PTA新聞コンクール」

・第 50 回「北九州市小・中・特別支援学校新聞コンクール」 他

各地で開催されるコンクールを支援する。

C-3 日本人学校等への支援・助成

1. 児童図書の寄贈

海外日本人学校(補習授業校を含む)10 校に対し、1 校あたり児童図書約 40 冊を寄贈する。

2. 国際交流に関わるイベント等への協力

C-4 コンクールの開催・顕彰

第 12 回「プリントコミュニケーションひろば」の開催

教師が制作する学校だより・学年通信・学級だより・教科通信・給食だより・図書通信等を対象とし、各種通信の質の向上を目指すとともに、学校・家庭・地域間のコミュニケーションツールとしての活用を促し、学校運営の改善と発展に貢献する。

また、学校・学級経営においての「通信の教育効果」について調査する。

第 11 回「プリントコミュニケーションひろば」の審査結果発表は 6 月上旬、また表彰を 7 月初旬に行う。

以上